婦人衛生雜誌

大正十二年六月二十五日發行

第三百七十一號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衞生雜誌

第三百七十一號目次

講演

○摩擦法に就て　女醫　藤井かう述

叢談

○麻醉藥發見の歷史　醫學博士　小酒井光次述

○頭痛の病理及び療法　醫學博士　杉田直樹述

育兒

○繈子の取扱ひに就て　高島平三郎述

○麻疹に就て　醫學士　藤井秀旭述

○泣く子笑ふ子　醫學士　宇都野研述

家庭衞生

○一種の腹帶　醫學博士　田原鎭雄述

○間違てゐる眼鏡　莊司秋次郎述

○日本食品中の「ビタミン」調査　下田吉人述

雜報

○內務省衞生局の推奬「フィルム」

○衞生技術官會議

會報

○大日本婦人衞生會收支決算報告

○五月例會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第三百七十一號
（大正十二年六月二十五日發行）

摩擦法に就て

女醫　藤井かう述

今から十何年程前に、私が婦人矯風會に書記をさせられて居りました時、アメリカに居りました日本の青年が機關雜誌（婦人新報）に投書してまゐりました。その内容は、今アメリカは豫防の時代であります。何でも事のおこらない先に注意して居る。その一二の例を擧げて見ますと、第一罪人が多く出來ると國家の費用が無駄な處に消費される。これを防ぐために、小學校學齡の兒童の中に不具者があれば、わざ〳〵自働車や馬車で迎へに行つて教育を受けさせる。その次は世の中がだん〳〵進んで來ると人が十分働かなければならないけれども、酒をのむために懶惰の民が出來る。斯くの如く國を思はない民が出來ない樣に、禁酒と云ふ事を盛んに宣傳して居る。と書いてあつたと記憶してをります。

今鳩山校長樣がおつしやいました樣に、現在の事よりも、將來を慮る事がほんとに大切な事と存じます。私は醫者の立場から、病氣を豫防する事と、病氣を治す事を摩擦法に依つて實驗致してをりますから、それを御話したいと思ひます。

何故病氣を豫防する必要がありますか。この間私がある雜誌を讀みますと、貧乏とは何かと云ふ題で、身體の弱いことが一番先に書いてありました。私はかねて、逆境にばかり置かれてをりましたから、自分程貧乏なものはないと思つて居たのです。今でもさう思つてをります。それで私の家に働いてくれる人々に對しても決して女中等とは思ひません。貧乏

研究生と云つてをります。けれども、この雜誌を讀みました時に、自分の身體が健康でありますから、全くの貧乏人とは申されないことになりましたと思つてをります。身體が惡いと云ふことは、第一家庭に幸福がない。病人があれば笑ひたくても笑へない、音樂を奏したくても遠慮もしなければならない、又その當人も不自由であるのみならず、他の人にも迷惑をかけて、つまり能率が上らないことになります。それ故どちらの家でも、病氣を豫防したいのはあたり前です。

病を豫防する方法には色々ありませうが、摩擦法で豫防する事と、注射で豫防する事と、二者の區別を申上げて置きませう。注射で豫防するのは、皆樣の御承知の通り、免疫血淸を人體内に注射して置けば、傳染病が感染しやうとする時に、血液の中に、抗毒素が出來て、發病させないのであります。しかしこれには、時期が制限されて、始終效力があるのではありません。

摩擦法でいたす豫防と云ふのは、平常胃腸を健康にして置くと、いつでも良い血液が出來てをりますから、自然的に血中に抗毒素を持つて居る譯です。それですから胃腸の健康な人は、始終注射をして居ると同じ譯です。

斯樣に申上げる譯は、胃腸が弱ると、その粘膜に類脂肪體が出來て、血球を溶かして居る、それ故にだん〳〵身體に貧血が起りますので、病氣に感染し易くなるのであります。

唯胃腸を丈夫にするのには、腹部を手で每日撫でるのであります。そして何處かに、かたい樣な處があれば、それを揉んでほごしてをきます。私の實驗に依れば、流行感冒や、「コレラ」流行の時、あわてゝ注射を致すよりも胃腸を健康にして置くのが感染を防ぐのに、最も有效と存じます。

今までは豫防の事を申上げましたが、治療上摩擦法の效力を申上げませう。藥で病氣を治すと云ふ事は、病氣に依つては、非常に速かに效を奏しますけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れども、場合によつては、直接に病處へ作用する事は考へられません。それ故にいくら藥を飲んでも、全快しない事はたくさんある事です。殊に胃腸病、神經衰弱及神經痛等には、藥で治すよりも、摩擦法で治す方が合理的に考へられます。

摩擦法で病氣を治すと云ふのは、すべて病氣にかかつた臓器に關係してゐる筋肉は、短縮をおこす、手でさはれば、「コリ」(硬結)になつてをります。その筋肉をほごせば、臓器がよく働く様になるのを主眼として居るのです。例へば、胃腸の惡い時は、腹部のどこかに固くて痛い場所があります。咽喉が惡い時は首のどこかにコリを觸れます。腦神經衰弱があれば、顔面のどこかに、やはりコリを觸れます。之を摩擦法に依つて延ばしますれば、多くの場合病を根治する事が出來るのを實驗してをります。御參考までに實例を申上げませう。

二年程前から胃腸病で服藥してをりましたが、下痢と便祕とが交る々々起つて、どうしても治らない人がありました。診察の結果この人には神經衰弱が伴つてをり、顔にはコリが出來て、頬の一部分が非常に高くなり、頤の筋肉は非常に瘦せてをりました、それから胃腸の治療は勿論神經衰弱に對する治療をいたしまして、約四十回で學校へ出られる様になりました。

次の例は六年間胃腸病の爲に轉地したり服藥をしてをりました婦人が三週間の治療で始めて普通の食物が取れる様になりました、けれども此の人は病氣が永かつた爲に折々、摩擦が必要でしたから、根治までには、約半年かゝりました。今では健康の人になつてをられます。

その他神經麻痺のために、舌が凝つて言葉の出來ない人が、口がきける様になつたのもあります。神經痛で十年程惱んだ或上流の婦人が二週間の治療で、根治したのもあります。

兎に角、適應症なれば摩擦法は藥よりも、遙かに效力が勝つてをります。唯困る事は時間のかゝる事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

です。

これで私が藥を用ひませんで、摩擦法を豫防にも治療にも致して居る事を御承知下すつたと思ひます。

之を自分一人でいたす事は中々容易な事ではありませんし、御家庭の方に覺えて頂けば、いつでも、子供を丈夫にして、勉强を續けさせる事が出來ますから、左に胃腸の揉み方と、頭、頸の揉み方を申上ませう。

腹部の揉み方

一、なで方

1 手の平で心窩を上から下へなでる。

2 左の季肋から心窩へかけて横になでる。

3 臍の廻りを右から左へなでる。

4 腹部全體を掌で右から左へなでる。

二、揉み方

1 胃をもむ時は、心窩を三本指で揉み。

2 小腸をもむ時は腹部の左側の一側から他の側に向けて押し又再び右から左へ向けて押す、それを繰り返す。

3 大腸をもむのには、左右の指先を重ねて、盲腸部から右側は上に行き、次に横に、左側は上から下へ押しながら揉む。

このもみ方となで方を交り〴〵にいたしまして、もんだ後は必ずなでるのです。そして固いコリのある處は幾度も手の行く樣にして、伸ばすのです。それから、患者は仰臥にして膝をまげて腹部をゆるめ、術者は患者の右に坐る事。時間は腹部の暖まる迄摩擦する、一日一回にて食後なれば一時間隔てゝいたゞくのです。

頸の摩擦

一、掌で頸の全體を上から下へなでる。

二、もみかた

1 頸の後の中央にある筋肉をもんでなでる。

2 胸鎖乳頭筋(頸の横によく見える筋肉)を揉ん

でなでる。

咽喉の惡い時は、頸の何處かにコリがありますから、それをよくほごして伸ばしますと、咳嗽も治ります。

頸の凝つた時は、頭の具合も惡う御座います。

頭の摩擦

1 五本の指に同じ力を入れて處定めず押す。

2 毛を分けながら、三本指で押しながら揉む。

頭の頂から下へ〳〵ともむのです、耳から後は殊に丁寧にもみ凹凸のある處はよく注意してもむ。

ボンノクボに母指を當てゝ押して見ますと、腦神經が健康なれば非常によい氣持がいたします、そのよい感じのない時は、神經が弱つて居ますから物に倦いたり、忘れ易く氣がいら〳〵いたします。

前申上げました樣に摩擦法に依つて、家庭の人の病氣を豫防し又病氣を早く治す事は、能率を高める事に於て、主婦のなすべき事であり、又醫者としてもなすべき筈と存じます。

叢談

麻醉藥發見の歴史

醫學博士　小酒井光次述

これは小酒井博士が「率先者の苦心」と題して、全身麻醉發見者ジェームス、シムプソンの事を話されたものでありますが、今日吾々が直接間接に蒙つて居る醫學衛生上の恩徳は、凡て斯うした苦心の末に成た賜であります。

（編者）

Sent a chill to my heart when I saw him come in
at the door, Fresh from the surgery schools of France,
and of other lands; Harsh red hair, big voice, big
chest, big merciless hands.

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

これは英國の大詩人テニソン――が詩の一齣である。

もぢやもぢやした紅い髪の毛、がつしりした胸廓、太い聲、大きな手。――敏感な詩人の胸に、「ヒヤリ」とした感じの起つたのもあながち無理ではなかつたのであらう。

「むかふ通るは外科醫ぢやないか、顔がよく似た、あの顔が

詩人ならずとも、その頃の人々の眼に、外科醫はたゞの一瞥によつて、たちどころに識別された程、その風丰はいづれもすさまじいものであつた。――時は第十九世紀の始め、所は大英國と御承知ありたい。

「同じく病むにしても、腫物は拵えたくはない、腫物が出來ても、外科醫の手にはかゝりたくない」といふのがその地の人々の、人知れず神に祈る所であつた。不幸にして手術を受けねばならなくなつた患者が、手術の日の近づくを憂ふる樣は、實に何に譬へやうもなき、憐れにもまた遣瀨ないものであつた。屠所の羊とは正にそのこと、かの罪を犯して刑場の露と消ぬべき死刑囚が、所刑の日を迎ふる心と何の選ぶ所がなかつたのである。先づ患者はその手術の日を日毎に指折り數へて見る。愈々當の日になると手術の時間を時間毎に指折り數へて見る、愈々その時間が來ると、外科醫の馬車が門前に着くのに耳を傾ける。次には彼が「ベル」を鳴らすのを聞く。次で階段を昇る音、病室に入る音……

麻醉法の發見せられなかつた時代に、手術を受けねばならぬ患者が、かうした心痛を味はつたのはいかにも當然であつて、實際、その時分の外科手術室は、屠獸所と異なる所なく患者は、膂力逞ましい數人の荒くれ男に鷲掴みに支へられ、外科醫は患者の苦痛など少しも顧ることなく泣かうが唸らうが、落つき拂つて思ひ切つた荒療治を行ふを常とした。幸にパレー以後切られた血管に白熱した鐵棒を當てることだけは止められて、一般に血管結紮法が行はれたけれど、尚ほ且迸る鮮血は瀧つ瀨の如く、

これを鋸屑に吸ひ取らせる有様は轉た悽慘なるものがあつた。

この物すごい光景を見て、始めて手術室に集つた學生たちの中、思はず氣絶するものは甚だ多かつた。されはわが敏感なジェームス・シムプソンが、學生時代に、リストン Liston の手術を始めて見たとき、折角思ひ立つた醫學を中止して、法律を修めやうかと、思つたのも實に無理はなかつたのであるが、長い間の煩悶の後、彼は飽くまで初志を貫徹することに決し、それと同時に、何か患者のこの苦痛を救ふ方法は無いであらうかと、ひそかに思考をめぐらすに至つたのである。

シムプソン Sir James Young Simpson は一八一一年に生れ、一八七〇年に死んだ生粹のスコットランド人である。バスケートといふ村の麵麭燒きの第八子であつた。彼の巨大な頭は小さい時分から逢ふ人の誰にも注目されずに居かつた程で、早くも鄕土に傳はる口碑や迷信に異常なる「アフィニテート」を示し（後年彼は考古學に關する多數の立派な論文を公にした）。またその天稟の詩才は、錦の如き自然の美觀に、心ゆくばかり育み培はれたのであつた。兩親は彼の幼い時分に死んだがため、一人の姉と長兄とは彼をわが子の如くに愛して、彼がエヂンバー大學を終ふる迄、彼に少しも學資の苦勞をさせず、思ふ存分に勉學の機會を與へたのであつた。かうして人人の厚い情の中に育つた彼が、その頃の殘酷な外科手術を呪ひ嫌つたのは無理もないことで、あのやさしい、いつも微笑を湛へた輪廓の大きい顏を見たならば、どうしてそれが、時として恐ろしい手術刀を握る產科醫であると思はれやう。果して彼は後年「クロ・フォルム」麻醉法を發見して、その顏にふさはしき人類の恩人となつたのである。

一八四〇年エヂンバー大學の產科學の教授に任ぜられてからも、彼は學生時代に考へた「苦痛を除く方法」に就てたえず腐心したのである。が、この「苦痛を除く方法」に就て考へたのは彼一人でなく、一

八四四年麻酔法の嚆矢は實にアメリカ人ホレース・ウエルスによつて放たれたのである。齒科醫のウエルスは「笑氣」を用ひて無痛的に齒を拔くに成功したが、弟子モートンと共に、公に「デモンストレーシヨン」を行つた際不幸にしてその成績惡しくために世に認められずして悶死したが、モートンはその志を繼ぎ、笑氣の代りに「エーテル」を使用して遂に世に認められ、次で暫くの間に本國は勿論歐洲にもこの「エーテル」麻酔法は傳へ擴められたのである。

一八四六年の「クリスマス」休日のある日、シムプソンはロンドンに來て、「エーテル」麻酔法を最初に行つたリストンに逢つて同法に就て論じ、翌年正月彼は直ちに之を產科に應用した。が、彼は間もなく「エーテル」に慊らぬ感を抱き、何とかして之に代つて之よりも遙かに有效な物質を發見したいものと考へ、或は單獨に或は助手のケーヌ及びダンカンと共に、ある時は自宅に於てある時は病院に於て、片つ端から色々の藥劑を自から吸入し、いつも深更に至るまで、その苦しい實驗を行ふのであつた。かうして夏も過ぎ、秋も過ぎて一八四七年の暮に至り、遂に「クロロフォルム」を探し當てたのである。

十一月の四日の晩のことである、一日の劇しい仕事に疲れ乍らも、彼は二人の助手と共にその夜遲く我が家に歸り、食堂に於て例の實驗に取りかゝつた。最初數種の藥劑を吸入して見たが思はしい效果がなかつたので、彼はふと、いつか、「がらくたもの」を入れる机の中に入れて置いた小さい藥罎のことを思ひ出し、それを試みて見やうと、やつとかゝつてそれを搜し出し、三人は取りあへず、その中の藥品「クロ・フォルム」を吸入したのである。――するとどうであらう。彼等の前にはいまだ嘗て經驗せざる世界が現出し、彼等の會話はいつしかしどろもどろとなり、やがて何とも譯のわからぬ大聲を發して、次の瞬間墓場の如き靜肅に返り、更にどさりといふ音がした。

ふとシムプソンが我に返ると、最初彼の頭には「こ

りや「エーテル」よりも遙かに強い」といふ觀念が閃めき、次で自分が牀の上に轉げ横はつて居るのに氣附いた。その時物音が耳に入つたので、あたりを見廻はすと、ダンカンは椅子の下になつて、顋を落し、眼をみはり、前後不覺に大鼾をかいて居た、ケースはと見ると、無意識にその兩脚をじたばたさせて、食卓を蹴たほさんずる有様である。——暫くの後、漸次意識を恢復した彼等は、互にこの藥劑の偉力を讃嘆し、その夜をも數回實驗を繰返して、罎の中の「クロ、フォルム」は最後の一滴まで使用し盡されたのである。

かうして「クロ、フォルム」麻醉法は發見せられたのである。そして一八四七年十一月四日は人類が永遠に記念すべき日となつたのである。——この方法が一般に承認せらるゝ迄の經過は實に波瀾重疊といふべきであるが、それは今こゝで記すべき範圍ではない。たゞこれによつて科學的率先者の苦心の一斑を讀者に知つて貰へばよいのである。

シムプソンのこの發見が、人類を愛する心から出發したものであることは讀者の既に了解せられた所であらう、科學者は眞理を愛する心を以て活動すべきであると同時に、人類を愛する心を失つてはならない。現代の醫學者が動もすると陷り易い弊害は、この人類愛の缺如にその原因を求むべきであるまいか。理屈は兎に角、我等は安心して手術の受けられるやうになつた現代に棲息することを喜ぶと同時に麻醉法の發見者に對して滿腔の謝意を捧げなければならない。

頭痛の病理及び療法

醫學博士　杉田直樹　述

これは杉田博士が山梨縣醫學會でなされた特別講演でありまして、本誌の讀者諸姉には或は難解の專門語も尠くないやうに思はれますけれども、頗る平易に述べられたものでありますから、御解りにならぬ所は、そのまゝにしても、出來御婦人方に多い頭痛は如何なる原因に由るものであるかゞ大體窺はれる事と存じまして、そのまゝ茲に轉載さして貰ふこと〻致しました(編者)

頭痛は病名ではなく、單に一の症候名に過ぎない。しかし頭痛は自覺症候の中最も早くから現はれ且つ患者にとつて最も不快な堪へ難いものであるため、まだその本來の病氣の各特異徵候が十分に現はれて來ない間に、頭痛のみを唯一の主訴として醫を訪うて來る者が決して尠なくない。而も頭痛が主徵候であるといふことを根據として早計な診斷を下すと、往々過誤に陷る例が多い。單なる頭痛といへどもその適確なる診斷を誤れば、その對症療法さへも容易く成功するものではない。一般内科醫にとつて頭痛の對症療法は、不眠の對症療法とゝもに、最も必要であり又最も容易の如くであつて、しかも實地上これほど思ふ樣に行かぬものはないのである、余は主として實地醫家の日常の診療の上に助けとなることを標準として、頭痛の病理及びその對症的療法の適用の槪略をこれから講述して見やうと思ふ。

先づ頭痛を伴ふ疾患を列擧して見やう。左に擧げる疾患はほんの代表的のものだけに外ならないが、是等の疾患の初期の頃、まだその本態が臨牀的に十分診定されない時分に、頭痛が先づ先驅症狀として、患者を惱ます唯一の苦惱として現はれて來る、この際この唯一の主訴たる頭痛を基礎として、他の潛める身體症狀を探つて、早く適確なる診斷を立てることは上醫の方に努むべきことである。頭痛のみに對して、餘りに鎭痛療法ばかりを急いではならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

頭痛を伴ふ疾患は(一)腦疾患、特に腦腫瘍、腦膿瘍腦動脈硬化症、内腦水腫、腦内出血及び腦軟化等、(二)頭蓋骨疾患、特にその骨膜炎、腫瘍、護謨腫等、(三)腦膜疾患、特に急性及び慢性腦膜炎の凡ての種類、(四)官能性神經症、(五)癲癇、(六)偏頭痛、等は申すでもなく、尚ほ(七)内耳、中耳、前額竇、副鼻腔竇等の疾患、(八)發熱時或は熱性傳染病、(九)輕症或は重症の貧血狀態、(十)腎炎、殊に慢性腎炎の尿毒症に移行する前など、(十一)黴毒性疾患、(十二)糖尿病の如き體質性疾患、(十三)酒精、鉛等の慢性及び急性中毒等も重要であり、その他に(十四)一過性頭痛、(十五)常習性頭痛、(十六)眼性頭痛、(十七)エーチルゲル氏の所謂硬結性頭痛等といふ本態の不明なものがある。後に一々是等のものに就いてその病理と特殊對症療法とを述べるつもりであるが、先づ頭痛發生の一般病理に就て概說して見やう。

頭痛と一概に云つてもその發生の局竈は凡そ五樣に分つことが出來る、第一は頭蓋外の腱膜、皮膚等に僂麻質斯樣の疼痛があるもので、これではその痛む場所に觸れると一層不快を覺え、頭髮などには強く觸れることが出來ない。併しその部に濕罨法又は「マッサージ」などを施すと卽座に輕快するもので、これは中年以後の婦人に多い。屢々疼痛の劇しい際には腦膜炎、黴毒性骨炎等と誤診せられることがある。第二は三叉神經の神經痛が不用意な醫師から頭痛と誤診されることがある。殊に疼痛性「チック」Tics douloureux と名けられる病型は度々一般醫家から誤診を受けることが多い。齒牙疾患から反射性に來る症候性三叉神經痛も亦甚だ多いものであるから診斷の際注意を要するものであつて、是等神經痛性のものは單に皮膚外表にのみ限り、疼痛の部位は外部から觸れたりして刺戟すると一層劇痛を訴へるもので、軟腦膜性の頭痛とは區別せられ得るのである。第三は頭蓋內のもので、軟腦膜及び硬腦膜に分布してゐる神經が化學的又は器械的に或る害因のために作働せられて、劇痛を感ずるものである。化學的と

いふのは何か血中の毒素、疲勞素といふ如きものが刺戟となるのであらうし、又器械的といふのは、腫瘍その他のため腦内壓が亢進して腦膜を頭蓋内面へ向け壓迫して刺戟を與へるのであらう。第四には軟腦膜の充血竝びに貧血が頭痛として感ぜられるものである。軟腦膜の血管が開擴して充血を來すか、或は頸靜脈その他の器械的壓迫により軟腦膜の鬱血を來すときには、劇しい頭痛を感ずるのが常であつて、これは器械的刺戟として解することも出來るが、軟腦膜の貧血の際にも劇しい頭痛が起るのである。全身貧血或は所謂腦貧血で頭痛が起るのは周知の如くであるが、偏頭痛發作の如きも今日では腦血管の痙攣による限局性貧血のための頭痛と解せられてゐる。下肢などに長座の後等に貧血のため所謂シビレが切れて劇しい疼痛を感ずると同樣に、軟腦膜も貧血により疼痛を發するものと思はれるが、その理由はまだ分らない。第五には大腦皮質自身に於ても頭痛を感ずることがありはしないかと考へられてゐる。元來大腦生理の實驗などの際に大腦皮質を露出して直接器械的に刺戟しても少しも疼痛を感じないやうに記載されてゐるが、しかし臨牀的にはやはり大腦皮質自身が頭痛の源となる場合があると考へねばならぬやうな例が少なくない。上記の各種に對する夫々の病理診斷及び特殊療法に就いては直ぐ後文に述べる。

頭痛の局所のことに就て尙ほ一言簡單に述べると、大抵の頭蓋内性頭痛に於ては漠然と頭蓋全部に亙る痛みを訴へるが、後天性急性神經衰弱症の時は前頭部に限局することが多く、體質性神經質、「ノイローゼ」等のときには後頭部に脈搏に應じてうづくやうに痛むと云ひ、この際には必らず眩暈及び耳鳴を伴ふものが多いのである。偏頭痛では偏側顱頂が痛むことは申す迄もないが、全身中毒性の頭痛では大抵兩側の顱頂顳顬部が痛むし、又消化不良に基く頭痛では前頭部に限り、便祕に基く頭痛では後頭部に限り、貧血及び衰弱に基く頭痛では顱頂部に限

るといふことも、何か病理上の原因が存するのであらうと思はれる。頭痛が限局性に或る限界せる部局にのみ劇しく來る場合は、何か頭皮、骨膜或は頭蓋骨の局在性疾患の結果と認むべきであつて、特に黴毒に多い。斯かる場合には先づ腦膜炎、膿瘍、護謨腫、又は腫瘍等にその診斷上の疑ひをおくべきであらう。又「ヒステリイ」に往々認められる「クラヴス」即ち顱頂中央部の劇しい刺穿樣疼痛は一の神經痛症狀と考ふべきものである。

それで頭痛の各論の第一として一過性症候性頭痛に就て詳說しやう。これは體質性に何か腦軟膜その他に過敏性があるのに因るものらしく、必ずしも身體虛弱な者とか神經質の者とかのみに來るのでなく、時には身體强壯な人にも來る。兎に角その人に就き夫々一定の原因のあつたときにのみ起り、原因が去れば跡方もなく頭痛も治つて了ふものである。例へば極端な例では夏氷水を飲むと、その冷水が食道を通つて胃へ達した際に一時的に劇しい頭痛を感ずると云ふ人がある。又遊獵に出て銃を發射して、肩に反動を感ずる度毎に頭痛を感ずるといふ人もある。これ等は恐らく反射性のものであらうとしか解し樣がない。その他頭痛の一時的原因となるものとしては、過勞、心痛、苦惱、努勉、焦躁、殊に空腹で劇しい身體の勞作をした時、睡眠不足の時、人込の室に入つて密閉した時等は堪へ難い頭痛を訴へる。强烈の香臭、溫熱並に酷寒、大音響の際等に頭痛を訴へる人もある。何れにせよ疲勞と飢と惡い空氣との三者は、一過性頭痛の原因となることが極めて多い。時には一過性の劇しい頭痛でなしに、かなり永く續く頭重の感、頭壓の感を訴へる人もある。これは恐らく疲勞素その他の內發的毒素が血中に入つて一時的の作用をするのかも知れない。上記の如き一時的の原因で一過性に頭痛を訴へるのは、右述べた如くその人固有の特異體質に因ることも多いが、それは恐らく硬軟腦膜の刺戟性の昂まつてゐるためであらう。しかしその外にも腦動脈硬化症や神經衰弱症

に罹ると、斯ういふ過敏性になる人が少なくない。老人になると自づと過敏になつて、些細なこと毎に一過性の頭重、頭壓、頭痛等を訴へる者が多いのは、多分この類に屬するものであらうと思ふ。

次に常習性の頭痛といふのは右の如き一過性頭痛を起し易い傾向のある人に、その頭痛の原因となるべき事況が長く續いた際に來るのであるが、その他少年青年等に往々常習性頭痛があつて、年長ずるに從つて自づと治する例が多い。これは多くは神經素質のある少年で、境遇が豐かでなく、生活上の逼迫、又は學業上その他の野心のため、一生懸命勉學し、しかも睡眠時間をも吝んで身心を過勞する苦學青年等に多く、その頭痛は大抵眼窠部又は前額部に限局してゐる例が多い。私一箇の經驗では朝鮮人の在京學生でかなり澤山これを見た。又學生では屢々眼の過勞或は眼機の屈折異常を看過するために眼性頭痛を起し、これが常習性となる例が甚だ多く、或眼科專門醫の如きは學生の神經衰弱症の大半は眼性のものだとまで極言してゐる。例へばヒンシェルウッド氏は凡ての頭痛患者の五〇%は眼より來ると云ひ、リスレー氏は一千例の眼病患者中半數は頭痛を伴つてゐたといふ。又グリーンウッド氏は屈折異常及び眼筋異常患者九百例中四百八十例では、其初期に頭痛(殊に前額部の)を唯一の主訴としてゐたといひ、而も此四百八十例中屈折異常の矯正をしたら二百三十九例は全く頭痛治癒し、百三十四例は輕快し、頭痛の治らなかつたのは僅か四十三例に過ぎなかつたといふ。而して其四百八十例の半數以上は亂視及び遠視であつたと云ふ。ミッテルドルフ氏は頭痛患者四千例中千五百八十七例は亂視であつたと報告してゐる。兎に角讀書、手仕事、書字等の度毎に常習的に頭痛を訴へるものは一應眼科醫を訪うて見る必要があるであらう。その他若い婦人ではよく全身貧血のため(歐米では萎黄病のため)常習性頭痛を告へるものがあり、青年では肺尖加答兒や腎炎のため、又老人では萎縮腎のため、又婦人では經歇期に

於て、屢〻斯う云ふ常習性頭痛に陥る例が多いやうである。これ等は凡て軟腦膜の輕い充血狀態を起す結果であらうと考へられる。

次には婦人によくある頭痛で實地醫家から往々閑却されてゐる一型に就て述べやう。それはエーヂンゲル氏が硬結性頭痛を名けて、全頭痛例の四割を占めてゐると述べてゐるものであるが、實際私共の經驗では體質性神經衰弱症或は「ヒステリイ」等にもこの硬結性頭痛に類似の頭痛症狀を伴ふことが多いから、純粹の硬結性頭痛はそれほど多いものではなからうと思ふ。この頭痛型は急性に來ることもあり、又慢性の經過をとることもある。急性の場合は頭筋の僂麻斯性筋炎を認むべきものと云ひ、エーヂンゲル氏は時に淋巴節腫脹を證し得たと云つてゐる。その特徴としては後頭骨の外結節僧帽筋附著部附近に筋硬結を生じ、僧帽筋、胸鎖乳頭筋、夾板筋、斜角筋等が硬くなつて腫脹し、所謂「筋が張つて來て痛む」のであつて、按觸すると壓痛があり、且筋組織中に何か硬い異物が入つてゐるやうに感ぜられる而してこれは「マッサージ」により揉むと大層心地よく、忽ちにして硬結がとれ頭痛が樂になる。この筋硬結は時には前頭筋、帽狀腱膜、顳顬筋或は頸椎に於ける諸小筋にまで及ぶことがある。この硬結性頭痛の原因に就ては僂麻質斯性とも云ひ、ヒス氏の如きは痛風性のもので該患者に尿血症を證したとも云つてゐる。時にはこれと伴つて神經痛樣症狀を認められることもある。對症療法としては局所の「マッサージ」感傳電氣、溫罨法、溫湯灌注法等皆一時的の效があり、又本邦本來の鍼治灸點も必適の效を奏する。內服藥としては「ザリチル」劑が一番宜しい。しかし凡て是等の療法は一時的の對症療法に過ぎないもので、本症狀は直ぐ治る代りに又些細な感冒か何かの元で直ぐ再發するものである。近時ミュルレル氏（グラードバッハの）はこの硬結はその筋の緊張性亢進のためだと云つたが、私の見る所では第十一對腦神經（ウィリス氏副行神經）の刺戟性亢進に基く二

次的筋緊張ではないかと思ふ。兎に角私共の經驗ではこの症候は「ウェロナール」の如き鎮靜劑でもよく治するし、又「ヒステリー」で「ヒステリー」球症狀のある人では、その際必ず球と共に硬結性頭痛を伴ふことが多いので。この症候は恐らく神經性のものではないかと考へてゐる。

次には三叉神經域の疼痛が往々頭痛と混同されてゐるから、これに就て述べて見やう。その一番烈しいものは前に擧げた所謂疼痛性「チック」で、これはあらゆる神經痛の中で最も恐るべきものである。これでは三叉神經の三枝とも凡て侵されることは寧ろ稀であつて、大抵はその内の一本(特に上眼窩枝)か、又は相隣つてゐる二本が侵される。糖尿病性の場合は別として大概は偏側性に起つて來、患者はその神經枝の領域に堪へ難い劇痛を訴へる。發作中にはその側の顏面に不隨意性の烈しい持續性痙攣を伴ひ又その側の涙液、鼻粘液及び唾液の分泌を亢め、是等が自ら流れ出して來る。發作は自發的に偶然に起つて來ることもあるけれど、大抵は何かの刺戟をきつかけにして起つて來るもので、患者はそのために患側で物を嚙むことをなるべく避ける。或人は觸ると發作を起すと云つて長い間顏も洗はなかつた例もある。兎に角不治性の三叉神經痛は甚だ不快な煩さいもので、ために悲觀して自殺に趨いた者も古來少なくないと何れの教科書にも記載してある。

その外個々の三叉神經小枝に限られた限局性發作性神經痛の型は澤山にある。皆夫々固有の壓點を有して居るべき筈である。若し斯ういふ限局性の三叉神經痛に會したらば、よくその口、鼻、耳、眼を調べて局所性の原因を探り求めなければならぬ。齲齒又は炎症を起した齒などが、それに相當した三叉神經枝の域に亙つて神經痛を起すことがある。これは齒科醫にその齒を拔いて貰へば神經痛も共に治つて了ふ。又齒の位置異常のために神經痛を起す場合もある。それから又副鼻腔の疾患や鼻茸等その他の局所損傷でも局所性神經痛が起ることがある。患者が特

に貧血症や又は痛風に罹つてゐると神經痛を起し易い傾向があるやうであるが、これは必ずしも貧血又は痛風そのものが限局性神經痛の原因になるのではなくて、近因は他に何か限局性の原因があるのに基くのである。しかしこの近因を發見するのは甚だ困難なことが多い。腦底の黴毒性腦膜炎又は護謨腫が頭蓋底の所で三叉神經を損傷して三叉神經痛を起すことも稀でない。しかし斯ういふ場合には頭蓋內疾患の他の徵候も伴ふし、又三叉神經の運動性の神經根も同時に侵されるのが常であるから、これを十分に調べなければならぬ。

その他頭蓋外の原因で來る頭痛を列記すると、丹毒でもよく頭皮痛が來るが、この際には發赤、熱感、浮腫及び體溫昇騰を伴ふものである。頭蓋の骨膜炎がある時には壓すると殊に堪へないほど痛い。これはよく黴毒性に起るもので、この時には夜間特別に疼痛が甚だしい。

これより頭蓋內の原因による頭痛を詳說することにするが、頭蓋骨の內面に頭痛の原因のあることもある。その局所性原因としては、多くは乳嘴突起內小房、前頭腔又は篩骨腔などの色々な氣房を蔽うてゐる粘膜が炎症を起したのか、又は單純な感冒に基くものが通例である。斯う云ふものは局所診察と既往歷とから大概判斷がつく。しかしときには稀に骨「カリエス」又は局所性の骨外腫があつてこれに基いて疼痛が起ることもある。齲齒も屢々反射性に頭痛の原因となることがあるが、このときには頭痛は大抵顳顬部に限局してゐる。

次には神經質卽ち體質性神經衰弱症に來る頭痛であつて、これは實地上一番多く遭遇するもので且つ一番治療に困難するものである。神經質の病理竝に療法に關する詳細なる私見は一昨年の「醫海時報」に私が連載せしめたことがあつて、それに大體頭痛のことも述べておいたから、篤志の人はそれを御參照を願ひたいが、兎に角神經質といふ變性的體質にあつては、その特徵は大腦血管が些細な刺戟により

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

忽ち開張し易いことにあるのであつて、恐らくこれは體質性に交感神經系異常緊張症 Sympathicotonie があつて、ために大腦毛細血管の血管開擴神經の病的反射亢進症狀があることに歸すべきであらう。その一面の證據には神經質者には皮膚紋劃症の著しい者が多い。例へば胸廓前面の皮膚を輕く搔抓すると、その痕が毛孔が立つて鳥肌になる。尚ほ強く搔抓すると鳥肌になつて後その部が發赤腫脹し、劇しい時は「みゝず腫れ」になる。これは皮膚の立毛筋竝に毛細血管に分佈してゐる交感神經の異常緊張症のために反射亢進を起してゐる故と解せられる。神經質の人はつまりこれと同樣な毛細血管開擴作用がその大腦にも著しく起るものであつて、例へば少しく考慮、讀書、感動、憂慮等の原因があれば、直ぐに頭部衝逆の感が起つて烈しい頭痛、頭重が起り、この際頭部を左右に速く振動すると堪らないほどの不快を覺える。さういふ精神的の原因でなくとも例へば炎天へ帽子なしで出るとか、閉戸して事務に從事するとか、或は火鉢や爐火の上に顏を曝すとか、息を強くして喇叭や笛を吹くとかすると、それで既に堪へ難い腦の充血を來すものである。だからこの體質の者はよく夏日炎天下に遠足などを強行すると日射病を起し易いし、又麵包燒や火夫や喇叭手等の職務には到底堪へられない。

神經質の者が上記のやうな原因で烈しい頭痛を起した際には顏面が潮紅し、自ら「ポッポ」とするとか「カッカ」とほてるとか訴へ、眼瞼結膜も充血を來し、且多くは後頭部が脈搏に應じてうづくやうにズキズキ痛むと訴へる。又大抵はこれと同時に兩側の耳鳴眩暈の感、嘔氣の感又は惡心等を訴へ、且つ肩や頸筋が張り、恰も硬結性頭痛と同樣な症狀を示す。且つ心悸亢進あり全身不安となり、同時に種々の神經性症候が現はれ、瞳孔を檢すると極度に散大してゐる。

元來腦髓に分佈する血管は、前方は內頸動脈の延長が中大腦動脈となりこれから前大腦動脈が出で是

等にて大腦の前半を培かひ、左右の前大腦動脈の血液は前交通動脈で連絡してゐる。又後方は左右の椎骨動脈がヷロル氏橋部の後方で合一して基礎動脈となり、これから左右に前下小腦動脈、內聽動脈、上小腦動脈等を出して、末は左右に分叉して後大腦動脈となり、この後大腦動脈は左右夫々後交通動脈によつて內頸動脈と交通し、これにより視神經交叉部を取り卷いてウイリス氏動脈環を構成して、頸動脈の血と椎骨動脈の血とは凡てよく相交ることを得、腦のどの部分に故障があつても、これをよく他部の血で補ふことの出來るやうになつてゐる。これは解剖學上諸賢も既によく知悉せらるゝ所であらうが、神經質の人ではこのうち椎骨動脈系（或は後大腦動脈系）の毛細管に反射亢進を起し易いものと見え、その充血により後頭部の搏動性頭痛を訴へ、同時に內聽動脈の充盈により充血性耳鳴（搏動に應ずる雜音性の耳鳴）が起り、小腦動脈の充盈により眩暈、失調等が起り、且つ一般に腦內壓亢進により惡心、注意散亂、記銘不良、雜念涌起、その他の神經性症狀が來るのであらうと考へられる。瞳孔の散大するのは上頸交感神經節が何かの刺戟を受くるために瞳孔散大性交感神經が異常興奮を起すためであらうし、又頸筋の硬結を來すのは前に硬結性頭痛の處で述べたと同じく第十一對腦神經（ウイリス氏副行神經）の刺戟性亢進に基く二次的緊張ではなからうかと考へられる。

神經質者に來る注意散亂、不眠、强迫觀念の涌出、不安焦躁、疲勞性亢進等の症候も、私共は夫々大腦の異常充血狀態で說明したいと思ふ。又同樣に神經質者に來る心悸又は不整脈、神經性消化不良、便祕、頻尿、陰萎等の內臟性症狀も交感神經系異常緊張亢進症で說明を附けることが出來、又これには實地治療の上からの實驗に基いた私見もあるのであるが、本講の目的と少しかけ離れるから今回は專ら頭痛を中心としての事柄のみを申し述べるに止めようと思ふ。

元來斯う云ふ神經質卽ち體質性神經衰弱症は後天性に大腦の過勞等に依て起る一時的の外因性急性神經衰弱症とは違ひ、その發生の原因は體質的內因性のものであつて、思春期の頃一般に身體各臟器殊に內生殖腺の內分泌作用が急に旺盛となる頃に、何かその變調のために斯ういふ大腦毛細血管の異常開擴性を發呈するのに因るものと察せられる。だから斯ういふ者は年頃になると格別腦の過勞といふやうな特別の原因なくとも、自づと神經衰弱性症候を發呈し來り、不斷の頭痛を訴へるやうになるもので、偶〻その頃試驗勉强や失戀や落第の心痛などが誘因となることもないでもないが、よくその既往歷を精査して見ると決してこれを唯一の原因と看做すことの出來ないことが分るのである。

○○療法に就て簡述しやう。斯ういふ頭內の異常充血に因る頭痛は便通が快通するとか、或は適度の溫浴をとるとか、或は冷い大氣の中を散策するとかの方法で一時的の腦の血液を外周部に誘導するとそれで輕快を覺えることがあるが、根本的に治するには交感神經系異常緊張症を除くことが先づ必要で、それには私共の經驗では臭剝などよりも「ヴェロナール」「プロムラール」等の緩和な分解の遲い鎭靜劑「グリセロ」燐酸「ナトリウムカルシウム」其他の有機性燐鹽「パントポン」「ナルコポン」等の阿片「アルカロイド或は「カルシウム」「マグネシウム」鹽等の適宜なる合劑を連用せしむることが一番よい效果があるやうに思ふ。しかしこれは元來が體質性のものであるから、平常その體質を累しないやうな安易な生活法（職業等）をとらしむることが根本の豫防的の處置なのであつて、既に症狀を發したものを單に藥治のみで體質的に革めて治さうといふことは到底出來ない。又この體質者は外氣の氣壓や溫度の急劇な變化等には非常に感じ易いもの故、轉地療養をする人は山間の氣候變化の著しくない地方へ行くべきであつて、海岸地は却つて神經症狀を增進する恐れがある。海岸地へ一泊したゞけでその夜から不眠の起る人さ

へ少なくない。

次に述べたいのは偏頭痛に就てゞある。この病氣の特異症狀に就ては改めて玆に說く迄もないことであるが、その症狀の發現が發作性であつて一々その誘因となるものを認め難く謂はゞ内因性の如くに思はるゝこと、本病の發生には遺傳的關係が濃厚に認められるといふことから、本病の本態をば内因性の「ノイローゼ」と考へ、且つ恐らく前記神經質と同樣に交感神經系特に血管運動神經の緊張異常症に歸したいといふ說が有力となつて來た。兎に角その凡ての症狀は要するに發作性に一側の腦血管の痙攣性收縮が起り、そのために軟腦膜に强度の貧血が起つて一過性の限局性疼痛を感ずるものであるらしい。たゞ不思議なのは、經驗上よく人の知る如く偏頭痛の發作中その側の總頸動脈を强壓すると頭痛が輕くなり、壓を去ると又烈しく起ること、それから偏頭痛發作の極盛期には往々惡心、嘔吐を伴ふことがあることゝは、どうも貧血斗りでは說明が出來ない點であつて、これは何か神經性の反射症候ではないかとも考へられる。兎に角その偏頭痛發作の前兆として來る眼華症狀（Flimmerskotom）は大腦皮質毛細管收縮の初發症候らしい。この前兆の起つた際に直ちに腦に强い充血を起させる藥劑、例へば「アミールニトリット」のやうなものを用ゐれば。容易に偏頭痛發作を頓挫防遏して了ふことが出來る。これには「キニー子」、「カフェイン」、「アンチピリン」などでもよいし、藥が手許になくば濃い茶や咖啡を澤山に飮んでも確かに利く。偏頭痛に「ミグレニン」が特に利くといふのは「ミグレニン」が「アンチピリン」と「カフェイン」との合成劑で、格別に腦に充血させるやうに作用するからであらう。「アムモニア」瓦斯を嗅ぐといふことも偏頭痛發作には特效がある。これも「アムモニア」が鼻粘膜を刺戟してその分泌を促し、腦の血行に或影響を及ぼすためであらうと推せられる。シャルコー氏が初めて詳述した眼痲痺性偏頭痛と名くる病型は偏頭痛發作と共に動眼神經に屬する一二の眼筋の

運動麻痺が一過性に起るものであつて、是等の發生の原因特にその遺傳的關係に注意して探究して行くと、頭痛とは關係ないがかの定期性四肢麻痺症の如き疾患も亦いつかは交感神經系の「ノイローゼ」を以て解説せらるゝ時期が來るであらうと豫想せられる。

腦軟膜の貧血で頭痛の來る例は、右擧げた偏頭痛の外に神經質性神經衰弱症の一病型として、やはり血管運動神經の異常で來る所の所謂腦貧血性頭痛なるものがある。これに在つては患者は平素眩暈や耳鳴（充血性の者に反して金屬性の音の場合が多い）を訴へ、少し身神を使つた拍子に所謂腦貧血を起し一時氣が遠くなつて卒倒することがある。斯う云ふ人は平素顔色が蒼白で心悸があり、少しく物に驚くとか心神の過勞でもあると烈しい心悸亢進を來し、物事に疲れ易く根をつめて長時の作業をすることが出來ない。斯ういふ人は前に述べた腦充血性の神經質者と違ひ、散歩すると目が廻るとか入浴すると倒れさうになるとか云ひ、又多食しても直ぐ全身が苦しくなつて動悸がする。充血性の頭痛では牀についても少しも輕快せず却つて立つたり坐つたりしてゐる方が樂だと云ひ或は氷嚢氷枕を用ゐると快いと云ふが、腦貧血性の頭痛では身體を横にして休むと忽ちに輕快し、氷嚢などを頭部に當てることは到底堪へられない。斯う云ふ腦貧血性頭痛は一體に婦人に多く、臓躁性性格の人に見られることが多いやうである。斯かる頭痛に對する療法としては強心劑を與へ、且つ大腦皮質の毛細管を開擴させ腦に充血を起させ、兼ねて末梢神經性に鎭痛の效を有するやうな藥劑、即ち「アンチピリン」屬、「カフェイン」屬、「キニーネ」屬乃至「サリチル」酸系の藥が一番效果あるやうである。

神經衰弱症による大腦血管のみの貧血症状でなく、全身の貧血性疾患に於ても亦、その結果として腦にも貧血が來り、そのため腦貧血性頭痛を訴へる場合が少なくはない。全身の貧血病特に惡性貧血

病或は出血後貧血症、白血病などの場合の不快な頭痛は即ちそれである。又我國には見られない、若い女性に來る萎黃病に於ても頭痛が著しい自覺症狀であり、又我々の外來診察所にも往々十二指腸蟲病を有する者が、頭痛のみの自覺的主訴を以て自ら神經衰弱症と思つて來訪することがある。是等の全身貧血の症候としての頭痛は持續性のものもあり又發作性に增進するものもあつて一樣でないが、痛む場所は大抵前額部及び顱頂部に限ることが多く、腦充血性の場合と異なり後頭部の痛む例は甚だ少ない。且つその頭痛は前記した如く、横臥したゞけでも大層樂になり、尙ほ「アンチピリン」劑又は「カフェイン」劑、赤酒その他の强心劑、鎭痛劑等で忽ち輕快する。或學者はこの全身貧血に基く頭痛の原因を單に器械的に腦軟膜の貧血性疼痛とは認めないで、何かの自家中毒性の疼痛ではないかと論じゐる。

尙ほ頭痛の他の因として慢性便祕、消化不良、食物胃內停滯、腸內異常醱酵等が數へられる。これは恐らく自家中毒性のものではなくて、この際の頭痛もやはり交感神經系の反射性に基くものと私共は考へてゐる。何故と云ふに斯う云ふ頭痛は一度便通があるとその後忽ち輕快するし、又その頭痛は後頭部のみに限局して來ることが多いし、又斯かる消化系の作用異常に基く頭痛を有する人は大抵神經質の人であるからである。元來神經質に基く腦の異常充血性頭痛があつて何等胃腸障碍のない人でも、胃散又は緩下劑を用ゐて胃腸の作用を整正すると、反射的にその頭痛が一時輕快するものである。これは何腦丸といふやうな緩下劑を多量に含む民間の賣藥が相當に對症的效果を擧げて居るのでも分る。

又婦人の內生殖器疾患又は月經時又は月經前後等に頭痛を訴へるのも。小骨盤內に分佈する交感神經或は自律神經系の異常刺戟が、頭蓋內の自律神經或は交感神經系に反射的に作用して、腦の血管に或影響を與へるために起るものと察せられる。この際アトロピン等が有效なことも確かにこの病理を證明し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てゐるものと考へるのである。

尚ほ鼻腔、咽頭、喉頭、耳等の疾患が多く前頭部又は顳顬部に限局せる頭痛を伴ふことは周知のことであつて、これを誤解して鼻腔の疾患が神經衰弱の原因となるといふ風に以前は說かれたものであつた。中耳炎や副鼻腔の疾患や鼻中隔斜位や鼻茸、扁桃腺炎、腺樣增殖等を有する者が、それ等の部位の刺戟のために頸動脈系の毛細管に反射性の血管開擴を來し、そのために前頭に中大腦動脈の分佈域に異常充血を來して、前頭部、顳顬部等に烈しい搏動性の頭痛を訴へ、丁度神經質者の後頭部の搏動性頭痛と好對照をなしてゐるのである。病理學上淋巴性體質者に腺樣增殖等が多く、又淋巴性體質者に神經質の者が多く、これが頭痛といふ症候で連係している所から、從前腺樣增殖が神經質の原因であるかの如くに解せられてゐたが、決して腺樣增殖を除去したとてそれのみで神經質が治るといふものではない。兩者は共に同一原因から出てゐるのであるが、つまりは植物性神經系の刺戟感性の異常が兩者の症候の發現の眞の共通の原因となつてゐるものであらう。

又これとは少し違ふが、重症の心臟疾患又は肺氣腫の場合等には頸靜脈系の鬱血が起つて所謂鬱血性頭痛が來る。鬱血性頭痛は咳嗽をすると堪へ難くこれが頭へ響けて痛むので、他の頭痛型とは區別がつくのである。

以上で頭痛の諸型の病理の中、實地診療に重要な點を殆ど凡て簡單に御話しを致したわけであるが、この病理の上から適確な頭痛の原因の診斷がつきさへすれば、それにより既に藥理學上の知識に從ひ適切な對症藥治療法の方針が定まるわけである。今回は時間の都合上、頭痛の各型に對する療法の各論を詳しく申し述べる暇がないのは遺憾であるが、終りに以上の御話の要約として頭痛の診斷の上に最も必要な診察の要點を左に列擧しておく。是等の點に常に注目しさへすれば適確なる頭痛の原因の診斷は大

凡誤りなきを得ること丶思ふ。

即ち

一、眼の檢査（眼底檢査は申す迄もなく、時には綠内障の初期が頭痛のみを症候として現はれて來ることがある故、出來得べくば眼内壓も測れば申分ない）。

二、體溫（傳染病の初期など）。

三、血壓（腎炎又は腦腫瘍など）。

四、尿檢査。

五、後頭部頸筋の觸按。

六、鼻腔咽喉頭の檢査。

七、既往歷中。

（イ）頭痛は一時的か持續的か發作性か、發作には誘因ありや否等。

（ロ）官能性神經症か等。

（ハ）每日頭痛が同時刻に反復するか否等を注意する。

是等の診斷の結果と上記の敍述とを對照すれば大凡診斷はつけ得られると思ふ。

尚ほもう一つ終りに附錄としてハーヴァード大學のカボット氏が多數の實驗例より得たる頭痛の原因の分類表を參考の便のために左に示しておかうと思ふ。

頭痛の原因（カボット氏）

一、疲勞、饑餓、炭酸瓦斯	甚だ多數にして數字を擧げ難し。
二、秘結、消化不良	
三、急性酒精中毒（宿醉）	
四、眼筋、視神經等の視器過勞	
五、熱性傳染病初期	
六、月經	
七、神經衰弱症、「ヒステリー」	約三五・〇%（一〇三九例）
八、腎臟疾患	二〇・〇%（六〇二例）
九、腦膜炎	六・〇%（一七二例）
十、副鼻竇炎	五・〇%（一五七例）
十一、三叉神經痛	四・〇%（一一七例）
十二、硬結性（筋炎性）頭痛	三・〇%（八九例）
十三、偏頭痛	三・〇%（八九例）
十四、腦腫瘍	一・五%（四六例）
十五、黴毒性骨膜炎	〇・五%（一六例）
十六、原因不明	二一・〇%（六一九例）

育兒

繼子の取扱ひに就て

高島平三郎述

繼子の取扱ひ、これは古來の難題で、實に又已むを得ざる人倫の變態である。吾等は日本に於ける兒童心理學の權威たる高島先生の切實なるこの說を紹介したいと思ふ（編者）

子供は、實の父母が揃うて育てるに越したことはありませんが、不幸にして、父母の一方又は兩方が缺けた場合には、義父母又は繼父母の手に由りて、育てられねばなりませむ。

兩親とも無くして、全く義父母の手に由りて育てられる場合は暫く措き、繼父母、殊に繼母に由りて育てられる場合に就いて、その母たる人の心得を、極めて簡略に述べやうと思ひます。

繼母といふこと、昔から繼子につらく當る者のやうに、物の本などにも書いてあつて、一般に繼母といふと、繼子につらくするであらうと、疑の眼を以て眺め、親戚や知人など、子供の周圍の人が、子供に「お前のお母さんは繼母である」といふことを言ひ聞かせなどすることより、初めは實の母と思うて、何の隔て心も無かつたものが、次第に遠慮したり、ひがんで來るやうになつたりすることが多いのです。

これは、實に不深切な事であります故、初めから、繼母などいふことを知らさずに、幼少の時から育てた者は、なるべくそのまゝに、少くとも少年少女期を過ぐるやうに、親も周圍の人も、心すべきことであります。

併し、たとひ繼母であるといふことが分つたにせよ、幼時からほんとうの愛情を以て育てれば、生みの母と少しも違はずに、馴れ親しみ、母の方も生みの子と少しも違はずにます〳〵愛情が加はる樣にな

るものです、我が生の子といふことが、愛を增すことはいふ迄もありませんが、自分が手塩にかけて育てねば、だん／＼愛情が薄らいで來て、終には他人の子と同樣にさへなるものです。里子に預けた子が繼子のやうに惡くなるといふ例は、いくらもあります。之に反して、生れた時から、自ら世話して育てた子は、全く生みの子のやうになるものです。それ故、繼母となつた人は、出來る丈け、自ら子供の世話をし、出來る丈け子供と接觸するがよいのです。中流以上の家庭で、多くの女中や保姆などがあつても、母親たる人は、子供の事丈けは、自分で世話するやうにせねばなりませぬ。

繼母が、繼子に對する態度は、初めから、實の子に對する通りでなければなりません。自分の生んだ子で無き故、義理ある間柄故などいふ考から、言葉づかひを特に丁寧にしたり、惡い事をした時に、叱るのも遠慮して、心に不滿を抱きつゝ、そのまゝに過ぐしたり、或は父親に隱して、特にその繼子に私恩を賣つたりするような事から、却つてだん／＼、その子の性質をひねくれしめ、少年少女期の終、青年期の初頃から、不良性を現はすやうにさへなるのです。繼母は、まゝしい仲ゆゑと、一人繼子を大事にする積りで、特別丁寧にしたり、我儘を容したり、或は又、反對に惡るくなつては大變と、非常に嚴しく干渉したりする爲めに、全くその所期に反するやうな、結果を來すのです。それですから、繼母となる人は、衷心から、自分は、この子の母となるものである。この子は、今から、全く私の子となるのであるといふことを、深く／＼心に考へ、全く私が生みの子と心得、少しも隔てなく、公平に賞罰し、子供の知能や品性を、啓發することに努めねばなりません。母たる人が、子供を養育し敎育する爲めに、子供に關する確實なる知識を持たねばならぬことは、いふ迄も無いことで、これは實母と繼母との區別あるべきではありませんが、取り分け、繼母となる人は、子供に關する知識を有することが、必要で

す。何故といふに、折角自分は義理ある子供を立派に育てやうと、一生懸命に努めても、それが子供の天性に反して居ては、却つて反對の結果を來し、子供の爲めにも、自分の爲めにも、夫や家の爲めにも、不幸此上ない事です。それ故、既に先妻の子供のある家に嫁いでゆく人は、結婚の準備として、何を措いても、子供に關する知識を研き、正當なる教育法を取り調べねばなりません。さうして、先方に往つたなら、少しも義理ある子などいふ事を考へずに、全く自分の生みの子と心得、眞正の愛を以て、之を公平に取り扱ふべきであります。

麻疹に就て

醫學士　藤井秀旭　述

本年は大分麻疹が流行して、往々餘病を發し、未だ全く收まらない模樣である。麻疹と云へば誰も知り顏にして、其實餘り明らかに本性を知らない人が多い。兒を持つ親は是非この藤井先生のお話を一讀して置かれむことを希望する（編者）

本年は氣候不順の爲めか、麻疹の流行は未だ終熄しない。麻疹といふ病氣は主として小兒病であつて哺乳兒をも侵す病氣である。初生兒は多くの傳染病に對して免疫性であるが、既に生後五ヶ月にもなれば麻疹にも罹るのである。麻疹は未だ之れに罹患しない小兒の總てを襲ふばかりではなく、大人になつてもなほ且つ之れに罹るのである。而して一度この病氣に罹ると二度と罹らぬ免疫性を得ると信じられてゐるが、それは絕對的のものではないのである。極輕い麻疹に罹つた者が二度も三度も本病に罹ることは小兒科醫の屢〻遭遇する所である。人あり難じて曰く、それは麻疹と似て非なる風疹といふ病氣があつて、素人目にも醫者にも、まるで麻疹の輕症のものと思はれる所の病氣に罹つた患者が、二度目には眞正の麻疹に罹つたものであらうと、これは一を知つて二を知らない者といふ批難を免かれないのである。風疹と麻疹の區別は小兒科專門家と雖も鑑別に困難を感ずる場合がないこともないが、多くは風

疹の流行と、麻疹の流行とが一緒に來ないから區別が出來安いのである。一家族中同胞が同じ麻疹に罹つたにしても、其の間患兒の體質によつて輕く經過する者もあれば、又重くて九死に一生を得る樣なものもある。斯くの如き輕症の者が數年後の麻疹の流行時に再感染をすることは小兒醫の屢〻經驗する所である。甚しいのになると毎年麻疹に罹つたなどいふ文獻さへある位である。啻に麻疹のみならず、凡ての傳染病の免疫は絕對ではない、「チフス」の樣なものは十年位しか免疫性がないと云はれ、種痘の效果は五年乃至十年である、猩紅熱の如きも、同一人に三回罹患した實例を私は知つてゐる。黴毒の如きは再感染をしないものと信じられてゐた所が、これも再度の傳染が可能であることがわかつた。斯くの如く小兒傳染病の隨一たる麻疹の免疫性は絕對的でないのであるから、一度罹つたからよいわと安心してゐられないのである。

昔は疱瘡は容貌定め、麻疹は命定めと云はれた位で、昔の麻疹は重症であつたのかも知れない。麻疹ばかりでなく凡ての傳染病は流行時によつて非常に違ふ。時によつて惡性のものが流行する時と、反對にその性質のよい時とがある。一昨年の正月頃流行した麻疹は直ちに肺炎を合併し來り、之れが爲め幼兒が麻疹肺炎によつて殪れた者の數は鮮少でなかつたのである。昨今流行のものは季節の關係からか、肺炎を合併するものは尠く、寧ろ胃腸障碍を起すものが多いのである。

麻疹に胃腸障碍、下痢殊に大腸加答兒の合併し來ることは周知の事實である。それは麻疹の毒素によつて腸管が障碍を蒙り、腸加答兒を起し來るのである。而してそれが早く麻疹の經過中、換言すれば發熱や發疹最中に大腸加答兒を起し來るものもあれば、又麻疹が順調に經過した後ち數日にして起り來るものもある。茲には醫者の爲めに小兒科學を講ずるのでないから理窟扱にして其手當に就て述べることにする。

醫學の第一義は病氣に罹らない樣にすること卽ち豫防が急務である業旣に罹患してしまつた以上は、輕く經過させる樣に努力すべきである。從つて痲疹時の胃腸障碍を惹起さない樣に、食物に注意し、胃腸に害を及ぼす樣な食物を攝らさない樣に氣をつけることが必要である。有熱時には口渇がある爲め、湯茶を多く飮みたがるものである。それは與へて宜しいのであるが、胃腸が自然に弱る爲めに、食事を好まない樣になる。それを兩親や周圍のものが心配して、牛乳や、「アイスクリーム」やを强いる、そこで唯さへ弱つてゐる胃腸は、餘分の重荷を負擔させられる、腸加答兒を起さゞらんと欲するも能はざるなりである。旣に下痢殊に大腸加答兒を起し、便通頻發し又は頻に便意を催し、粘液、血液を泌し來る樣になれば腹部の水治法を行ふがよい。それには「タオル」の樣なものを熱い位のお湯にて濕し、堅い位に絞り、それで以て腹部に罨法を施すのである。或は其の上に懷爐をのせ、又は鹽溫石をあて、若しくは熱い蒟蒻をあてるのである。此所で注意すべきことは、濕布を施さないで直接に溫石なり、蒟蒻なりを當てると、往々火傷を惹き起す虞がある。其の他食餌の選擇に注意すべきは云ふ迄もないのである。卽ち流動食を與へるのである。牛乳、おもゆ、葛湯の類を適當に、而して適量丈け與へるのである。

泣く子笑ふ子

醫學士　宇都野研　述

これは一體本誌の爲に執筆される筈であつたのが、遂、東京日々新聞に魁されたのである。依て玆にはそのまゝ轉載する(編者)

新生兒がうまれてすぐなくのは決してかなしみの表徵ではない。附帶榮養が斷絕して、肺胞によつて「ガス」交換を營まなくてはならないからである。新生兒のあぐるいはゆる呱々の聲は、實にそれまでねむつてゐた肺胞をひろげ、肺における血液の環流卽

ち小循環をうながすものである。されば新生兒のあぐる泣聲は寧ろ生の歡喜の表徵である。それから以後一ケ月位の間はないてもまだ淚の分泌がない。小兒科の鴻儒であつたヘーノッホ先生は、健康な哺乳兒のなくのは一は饑餓の感じからであり、他は糞尿によつて下半身がよごれたのを不快に感ずるからだと理解してゐたが、必ずしもさうばかりではない。私は寧ろ總ての表情運動だと見たい。哺乳兒と雖も少しく長ずると、仲々掛け引のあるものである。屈託してもなき退屈してもなくすこし抱き癖をつけるとそれからは號泣を以てそれを要求する。そして度胸のないおかあさんを威嚇する術を心得てゐる。われ／＼のやうに年中哺乳兒をいぢりつけたものは蔭でそのなき聲を聞いても、生後何ヶ月位の子供かといふことはおよそ見當がつきますし、うゑてなくのか疼痛の個處があつてなくのか、それとも横着でい、だゞをこねてなくのか位は容易に觀破し得るやうな氣がします。まあ公冶長が鳥語を解した程度には分かるやうに思ひます。殊に神經病質の子供になるとどんなに乳が足りても大人しくしてゐません。どこかに疼痛の個處でもあるかと思ふやうに號泣して頗る不安です。斯ういふ子供はよく晝夜を取ちがへる。いはゆる夜啼といつて、點燈時になると號泣してやまない。大津繪の鬼の念佛をさかさに壁にはつてもおつ付いたことではない。これは少し鎭經劑でも服めばなほるのであるが、家庭のおどろきはたとふるに物なしといつた有様である。

一體日本人が哺乳兒の啼泣を恐れることはやゝ病的である。どうしてなくのかを冷靜に觀察して、よくそれに對應する策を講じなくてはならない。

よい子だ、さん子だ、健全な子だ、まめでそだてたお子ぢやもの、寢るとねり餅くれてやる、だまると團子をくれてやる、なくと長持しよはせるぞ、おこると疳虫にくれてやる。

といふ子守歌がある。子守が子供の啼泣を禁物とするのは無理からぬことであるが、一般に啼泣をこ

はがり過ぎるのはよくない。元は一つは愛情の濃かなためでもあるが、無理解といふ點も關係があるし、放けつぴろげの家の中になき聲がひゞきわたるといふ點から、家屋の構造にも關係があることゝ思ふ。然しなかぬ子供必ずしも健全とはかぎらない。啄木歌集に

かなしきは、
(われもしかりき)
叱れども打てどもなかぬ兒の心なる。

といふのがあつた。涙の涸渇した子供はおほくなく子供より更にあはれである。これらは顯著な神經病質の子供である。

子供がわらふのは啼泣よりずつとおそい。うまれて一二ヶ月の子供と雖も笑顔に似た顔つきをするけれども、それは單に一種の顔面の運動に過ぎない、哺乳兒の五官を支配し得るのは、いはゆる生後三ケ月の暗黑時代を經過してからであつて、そのころからほんたうに愉悦の感じを以てわらふやうになる童謠に

きりやうのよい子にゑがほのないは月にむら雲花に風

と眞に然りである。重ね／＼病氣になる子はその顔までが大人に似てさびしくなり笑顔を示すことも少くなる。誰であつたかあんなに可愛い子供の顔が、どうして大人のやうに見つともない顔になるのだらうといつてなげいた學者があつたがほんたうにさうである。子供の顔は左右の瞳孔を貫く線によつて上下に二等分され、前額が大きく張つてゐて、目が圓圓としてきよらかである、そして鼻や顎の骨が未だ發達してゐないために、鼻が低く顎が小さく、いはゆる圓ぽちやである。わらふ時には咽佛さへ見せてわらふ。こんな可愛い笑顔はたとひ美人と雖も所有してゐないのである。東洋の詩人は傾城傾國といふやうなことをいつて、美人のわらひを頌へてはゐるが、子供の笑顔そのものについては一向に感じを發しないのか、それとも發しても表現しようとしない

のか、子供の笑顔を對象とした詩歌は少い。伊藤左千夫の「家の樂み」といふ長歌の一節に

見るもの目にたのしく、聞くもの耳にたのしく、
食物はなべてうまけれ、吾は三つよ吾は七つよ
と、丹の頰に笑みかたまけ、父を呼び母呼びさわ
ぐ、天地は賑ひにけり、わが家のうち。

といふのがある。めづらしいといふ點からこゝにひいておく。然しながらわらふ子供必ずしも健全とかぎらない。神經病質の子供と雖も陰鬱とかぎつたわけではない。時として大躁ぎに躁いで、わらふ、しやべる。洒落をいふ、そして人からひどく愛されるものがある。然し氣分本位で、氣分がガラリと變ると急にデプレッシーブな狀態になるものである。

家庭衛生

一種の腹帶

醫學博士　田原鎮雄　述

近來妊婦の腹帶と云ふものは特別の場合の外は用ゐませんが、尙ほ種々の病氣の時に用ゐられます。一體健康な人でも下腹に力がはいると、何となく全身が一層しつかりする心持の致すものでありまして、武藝に於ては勿論、其他の技藝に於ても一般に下腹に力を入れてと云ふのは、これが爲であります。精神の安定、靜慮を目的とする坐禪の作法に於ては特にこの下腹、所謂丹田に力を入れることは八釜敷く申すやうです。然るに元來腹筋の薄弱な人や、從來腹を纒まして淺い呼吸ばかりして居た人などは、なか〱思ふ樣に下腹に力が入らない。然るに禪帶と稱して一種の腹帶を腹の下にしめると、容易に下腹に力が入る。これと同じ樣な譯で、胃だとか腎臟だとか云ふ腹部の內臟が垂下る病氣がある時に、腹帶を施します。田原博士は胃下垂症の際に用ゐて良效のある一種

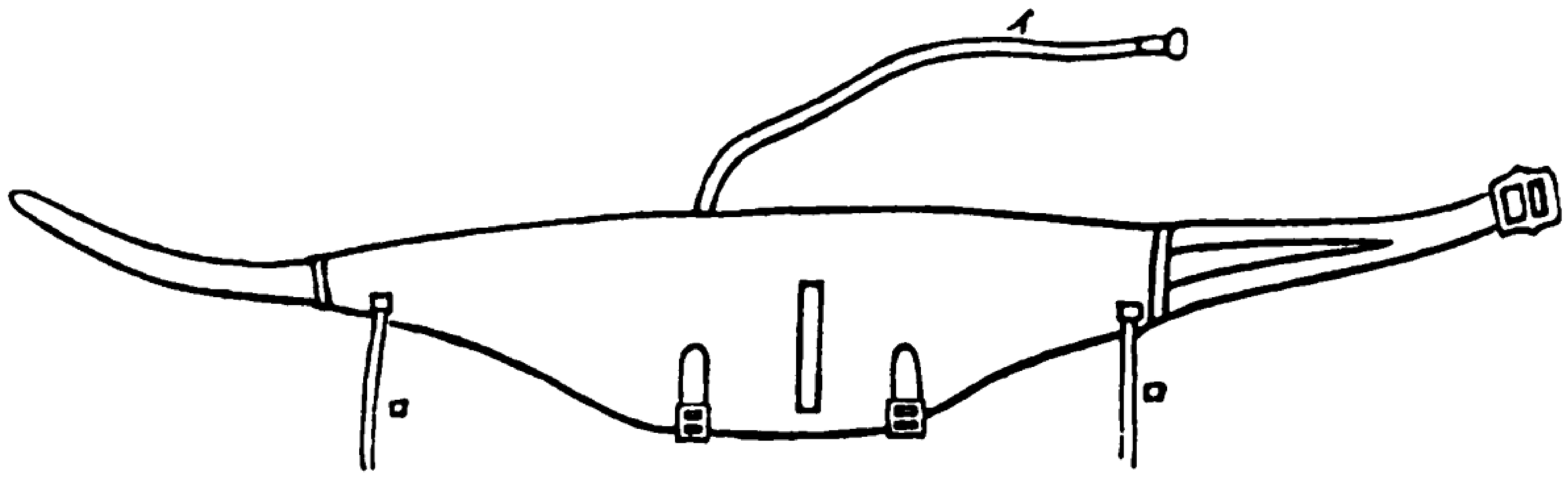
の腹帯を考案して「胃下垂症に就きて」と云ふ題下にこれを紹介せられました。その病人は如何にも心持好さそうに思はれますので、再こゝに御紹介致します（編者）

胃下垂症の診斷及び治療法に就きては、既に他に詳說されて居るから、今更ら本症に就て云々する要を見ないのであるが、事實上患者にして未だ醫家を歷訪して、しかも適當なる診療を受けて居らぬものが少くない、否寧ろ本患者の多數なること〻共に、その適當なる診療の普及せざることは歎ずべきものがある。それは漫言に非ずして余が陸軍軍醫學校外來患者に就いて日常痛切に感ずる事實である。

本症の治療法としては、外科的治療法、即ち胃の位置固定法を推奨する學者がある、但し本症患者の自覺症は種々あれども、彼の上腹部の疼痛及び不快感、全身倦怠、無力感、肢端厥冷、筋肉萎弱感、頭痛その他神經衰弱症候の如き、患者をして手術を決心せしむる程なることは稀であるのみならず、是等の症狀の一部は、單に胃下垂の爲めのみならずして、寧ろ腹筋の薄弱、腹壓の低下より結果せる循環障碍に歸すべきものなること、既に先人の高唱せる如くであつてこの事實は又た例へば腹帶を用ひし時はレントゲン檢査上未だ胃位置の矯正を認めざ

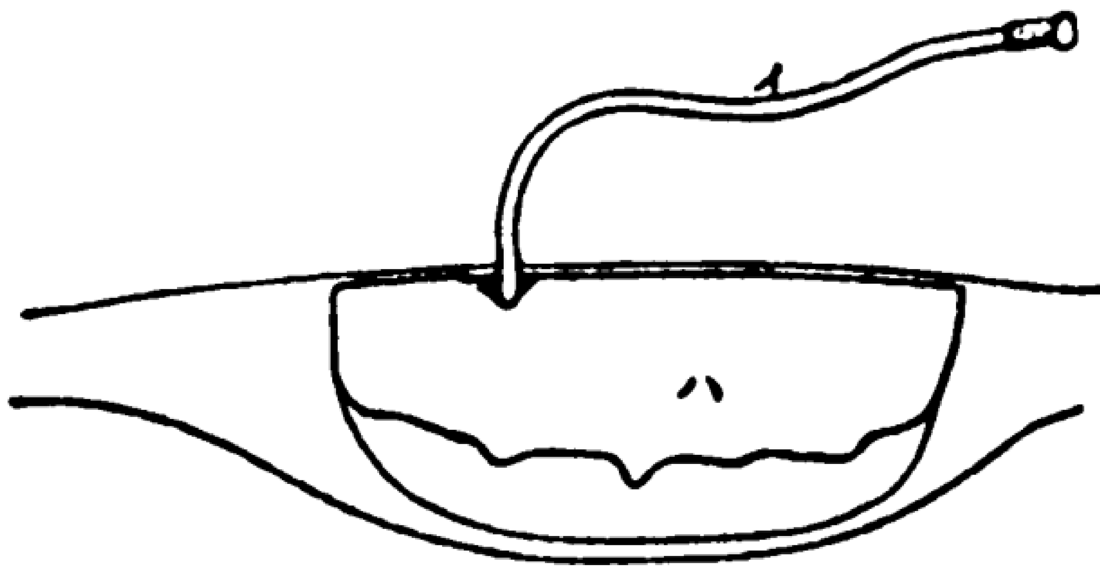
第一圖

前面



イ、護謨管
ロ、紐
ハ、護謨嚢

背面

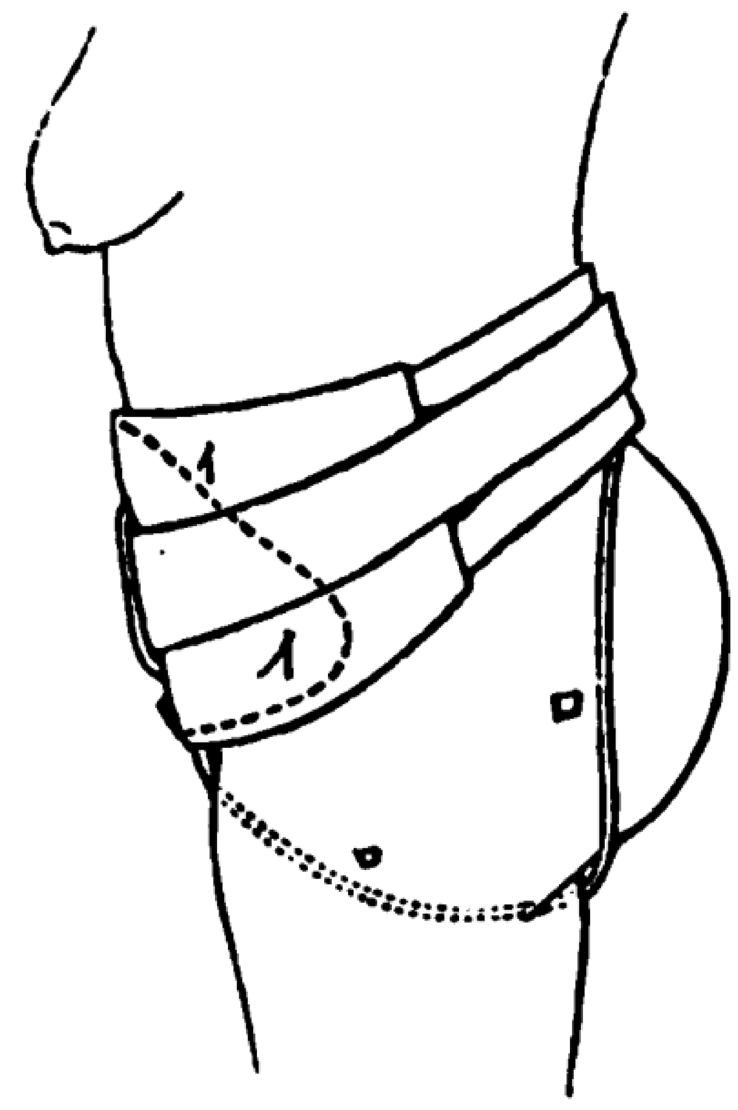


第二圖

るが如き者に於ても自覺的には直ちに著效を見るによつても知らるゝ所である。されば手術により胃を固定すると云ふことに賛成するのは、他の療法を試み盡して後の問題でなければならぬ。治療法の中最も推賞に値するは勿論腹帶である、而して從來用ゐらるゝ腹帶には種々ある、我邦に於ても井上式、碓井式等皆な相當の聲價を有して居ることゝ信ずるが、余は茲に一種の腹帶を考案試用して頗る具合よろしきを以て、これを紹介致したいと思ふ。

その要點は腹帶の後面に適當の形態を有せる護謨嚢を裝著して、これに空氣を吹き込むことにより下腹部を壓迫せんとするものである。而して嚢の前面には支柱板を具ふるを以て前方に膨隆する事なく、而して構造上より嚢は下方に於て著しく膨隆し以て恥骨上方より下腹部を強く壓し上方に押上ぐる如く作用するものとす。その形態及び使用法は圖に見らるゝ通りであるこれを裝著する時は諸種の自覺症は忽焉として消散し、頗る爽快を覺えしむるもので、而してこの腹帶にては空氣嚢が腹壁と拮抗せるがために漸次腹筋の強壯を來たすものであつてこれ單純

第三圖　側面



イ、腹壓嚢の膨隆を示す假線
ロ、股間紐

なる固形體による壓迫と異なる所と思惟せらる。この一時的竝びに永久的效果は、余が二ケ年餘に亙る觀察により確信する所であつて、敢て本症診療上の感想と共に本腹帶を紹介する所以である。

間違てゐる眼鏡

莊司秋次郎述

通常眼鏡の必要を感ずるのは、近視、遠視、亂視及び老視である。然るに世間には眼鏡を掛けると、その度が進むと稱して、不便を忍んで眼鏡を用ゐぬ人がある。これは間違つた考である。但し不適當

な眼鏡を掛ければ、實際掛けぬよりも有害である。眼鏡を用ゐる必要があつても用ゐぬ人、又は不必用な眼鏡或は不適當な眼鏡を用ゐて居る人は、どちらも無益の努力をしてゐる人である。故に精神的の仕事をする人は容易に疲勞する、それを強ひて續けると所謂神經衰弱樣の症狀が現はれて來る。一體癡愚とか白癡とか云ふ精神の足りない又は缺けてゐる人は、容易に仕事に疲れると云ふ事は一つの特徴であるが、無法な眼鏡を掛けてゐる人、又は必要あるのに掛けぬ人も矢張容易に仕事に疲れる、甚しいのは多少精神低格の人らしい外觀を呈して來る。

左に私の實驗した二三の例を擧げて見る。

(一)洋服裁縫職某、男、三十九歲。仕事をするに視力不十分にて容易に疲勞すると云ふ。檢するに輕度ながら單性遠性亂視がある、依てその矯正眼鏡を處方した。これに依て仕事が樂になつたのみならず、從來毎夜夢を見るのが、眼鏡を掛け始めると同時に不思議にも夢を見る事が殆ど無くなつたと云ふ。

(二)女中、二十二歲。裁縫の稽古をせんとすれども、近眼にて不自由なれば眼鏡を處方し吳れよと云ふ。檢するに著明なる複性近性亂視であつた。依てその矯正眼鏡を處方した。然るに其後その家の主人の話によれば、彼の女中は從來笑顏を見せたことのない女であつたが、眼鏡を掛け始めると同時に、俄に微笑して頗る愛嬌者に變つたと云ふことである。

右の二例は、是非必要なる眼鏡を用ゐずして苦しんで居た者の例である。

(三)牛乳屋某の次男、十四歲。將に小學校を卒業せむとしてゐるが、成績甚だ不良にして中學校に入れる資格が無さそうである、加之ならず近頃眼に異常があるらしいから檢査をして貰い度い、但し今日迄學校の體格檢査の際には何時も眼疾なしと言はれたとのこと。依てこれを檢するに極めて高度の近視眼で、眼底もこれが爲に著しい變化を來し、矯正眼鏡を以てしても普通視力の三分の一位しか視力が出ない。

これは眼鏡を與へる必要を知らずして、小兒を苦しましめ、低能者扱ひをして、一生の不具者にした哀むべき例である。

(四)音樂の女敎師、三十七歳。屈折異常あるを氣付き、有名なる某眼科病院に於て眼鏡を處方して貰ふたが、書物を見るに具合が惡るい、少し長く見て居ると頭痛がして來るのみならず、道を歩くにもグラ〳〵する氣分がして歩けぬから、其後二個年程は眼鏡を用ゐずして不自由を忍んで居た所、先日予の診察所で處方した女中の眼鏡を一寸掛けて見た所が、非常に心持好く見えるから、それと同じ眼鏡を處方して呉れよとの注文であつた。併しそれは何うしても一度精檢した上でなければ出來ぬと云ふたので、やつて來た。依でこれを檢するに複性近性亂視で、而かもその亂視の主軸は捩れてゐるものであつた。然るに以前の眼鏡を調べて見ると複性遠性亂視の矯正眼鏡で、その軸は縱横正しく交叉して居るものであつた。依て更に詳細に數回日を隔てゝ檢査して、愈〻予の檢査成績の正當な事を確め得たので、その處方をした所が、今日迄數年間全くそれで滿足されて居る。

(五)某博士方の女中、三十一歳。二十歳頃から近眼で眼鏡を掛けて居る。今日用ゐて居る眼鏡は七年程前に田舍の縣立病院で處方して貰つたものだが、近視の度が甚しく進んだものと見えて、近頃は間に合はなくなつたから、もう少し強い近眼鏡に代へて呉れよとの注文。これを檢すると、近眼ではない、反對に中等度の遠視である、而かも高度に近い程の遠視であつた。然るに長い間無法な眼鏡を用ゐ來つた爲に、正當の眼鏡を用ゐても完全の視力が出ない暫く眼を靜養させて多少良くはなつたが、完全の視力は出なかつた。

右の二例は何れも間違つて反對の眼鏡を掛けて苦しむだ人共である。

(六)著述家、二十八歳。中學時代から近眼鏡を掛けて居る。近頃近眼の度が進んだ爲か、眼に痛を覺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

え、頭の具合も惡い。多分眼鏡の度が合はない爲に神經衰弱症が起つたのではあるまいかと云ふ。これを檢するに近視はない、然るに可なり強い中等度の近眼鏡を用ゐて來て居る。それが爲に屈折狀態のみならず、眼筋にも間違つた癖が付いて、容易に的確な測定が出來ない。依て久しく眼を安靜に休息させた上で細密に檢査した所が、反對に輕度の遠視眼であつた。其後全く眼鏡を用ゐぬやうに勸めた所が頭痛も止み、讀み書きするにも何の不自由も無くなつた。

　これは無用の眼鏡を用ゐた爲の害である。近頃は眼鏡さへ掛ければ神經衰弱は勿論、萬病悉く平癒するかの如き邪說を唱へて俗人を惑はすしれ者もあるやうだが、右の例の如く要らざる眼鏡を掛けて神經衰弱症の樣な症狀に苦しんで居る人も少くない、否、かなり多い。戒心すべき事である。

　以上の如き例は無數にあるが、要するに眼鏡を掛けると度が進むと云ふのは全く迷信的俗說であるが、間違つた眼鏡を掛ける害に比すれば、掛けぬ方がまだ增しである。と云ふて必要の眼鏡を用ゐぬ損害も亦決して尠少でない。

　屈折異常あらば、近視でも遠視でも亂視でも、それ〴〵適當の眼鏡を用ゐるべきものである。但し稀には屈折異常があつても眼鏡を要しない場合、又は無益の事もあるが、その說明は茲には略して、兎も角も眼鏡は用ゐなければならぬものである。而してそれが適合しないと氣の付いた時には、專門の眼科醫に就て幾度でも精しく檢査して貰つて、滿足の出來る眼鏡の處方に乞ふべきである。場合に依ては眼科醫を換へ、眼鏡店を換へて見ることも必要な場合がある。何となれば眼科醫も往々檢定を誤り、或はその處分宜しきを得ぬ事もないとは限らず、殊に我邦には眼鏡用璉斯の密度が法律上規定されてゐないから、可なり種々のものがあつて、眼科醫の處方を狂はす虞があり、尙ほ璉斯の種類性質、構造も種々の相違があるからである。故に眼鏡は必ず眼科醫の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

處方に依て造らしめ、出來たならば其の眼鏡を携へて行て、もう一度その眼科醫の審査を受けることにするが宜しい。

日本食品中の「ビタミン」調査

下田吉人述

去る五月二日に開催された第九回榮養研究所研究發表會に於て種々有益な興味ある研究成績が發表されましたが、其中から茲には下田吉人、藤卷良知、松室秀夫の三氏の研究に係る日本食品中の「ビタミン」調査第四報の要旨を御紹介致します。

尙ほ茲に一寸註を加へて置きます。即ち

○「ビタミン」＝食物の主成分たる蛋白質、脂肪、含水炭素及び鹽類以外に動物の生存に必要なる未知榮養素の總稱。

○「ビタミン」A＝これが食物中に缺けてゐること一種の眼病や佝僂病などが起ること謂はれる。

○「ビタミン」B＝これが食物中に缺けてゐること脚氣の樣な症狀が起ること謂はれる。

○「ビタミン」C＝これが食物中に缺けてゐること壞血病が起ること謂はれる。（編者）

一、淺蜊中の「ビタミン」B

幼鳩十羽を用ひ、これを二群に分ち、「ビタミン」B缺乏飼料を以て飼育し、第一群（五羽）には供試品として淺蜊の「アルコホルエキス」四瓩（生淺蜊の六「グラム」に相當す）を毎日經口的に給與し、第二群（五羽）との對照により豫防試驗を施行せり。

	試驗開始後缺乏症を發したる迄の平均日數	試驗開始後死亡したる迄の平均日數
第一群	二四・五	二六・〇
第二群	二六・五	二七・五

即ち淺蜊「エキス」を給與したるも「ビタミン」B缺乏症の豫防上效果を認めざりき。故に淺蜊中には抗脚氣性「ビタミン」Bを含有せざるものと認む。

二、大根葉中の「ビタミン」A

白鼠十匹を用ひ「ビタミン」A缺乏飼料を給與し、缺乏症を發せしめ、之に新鮮なる大根の綠葉の部分

のみを與へ治癒試驗を施行せり。供試品五瓦を與へたるもの一匹、極めて重症なる「ビタミン」A缺乏性眼疾を發せるものなりしも漸次病勢衰へ體重を增加せり。

供試品三瓦を與へたるもの三匹榮養不良のため體重百瓦内外に止まりしも、榮養狀態良好となり、正常の發育を遂げつゝあり。

供試品二瓦を與へたるもの三匹稍〻重症なる「ビタミン」A缺乏性眼疾を發せるものなりしが、缺乏症全治し正常の發育に復したり。

供試品一瓦を與へたるも三匹輕症なる「ビタミン」A缺乏性眼疾を發せるものなりしが、漸次治癒し、體重增加の傾向を示したり。

故に大根葉中には相當多量の「ビタミン」Aを含有するものと認めたり。

雜報

○內務省衛生局の推奬「フィルム」

同省衛生局にては衛生思想啓發の一端として一昨年來活動寫眞の「フィルム」を作製し、廣く公共團體、公益團體又は學校等に貸與しつゝあるが、今回同樣の趣旨の下に更に民間の「フィルム」を查閲し、左記「フィルム」は大體相當の作品として公衆の觀覧に供するに足るものとして推奬し此程各地方長官に通牒したりと。

名稱	內容
一、生命の創作	結核豫防
一、呪はしき生存	花柳病豫防
(以上所有者　東京市赤坂區田町一の十五日本「フイルム」協會教育映畫部)	
一、蚊に刺されぬ御用心	「マラリア」豫防
一、心臓と血液	人體の循環系統に關する知識

一、耳の構造　人體の聽覺に關する生理的知識
一、眼の構造　人體の視覺に關する生理的知識
一、托兒船　米國に於ける育兒施設
一、赤坊と田舍、　赤坊の日課等　育兒に關する知識
一、操艇練習　「ボート」の秩序的練習法
（以上所有者　東京市京橋區銀座二の十五　岡本洋行）

○衞生技術官會議

同會議は去る十三日より十六日迄內務省內に開催せられたるが同會に於ける諮問事項及び指示事項は左の如くなりき。

諮問

一、飲料水の改良に關し最近數年に於て實施せられたる事項及び其の成績如何
一、汚物掃除法實施地に於ける汚物掃除狀況及び之に對する意見如何
一、公衆に對する花柳病豫防思想啓發に關する意見如何
一、學校、工場及び寄宿舍、合宿所等に於ける傳染病豫防に關する意見如何
一、藥品竝に賣藥取締の狀況
一、藥用植物栽培及び製藥事業の狀況如何
一、汎く一般公衆に對し身體の鍛錬又は保健的運動の獎勵をなさむとす、之に關し各地方に於て最も適切なりと認むる方法如何

指示

一、礦泉場、海水浴場及び保養地等の改善及び取締に關する件
一、屠場の監督に關する件
一、救療其他公共診療事業に關する件
一、結核豫防に關する件
一、「トラホーム」豫防に關する件
一、傳染病豫防に關する件
一、痘瘡の豫防撲滅に關する件
一、腸「チフス」の豫防撲滅に關する件
一、醫師會の指導監督に關する件
一、醫師、齒科醫師及び藥劑師の免許申請に關する件
一、運動、競技、武術等身體の鍛錬竝其の施設の獎勵に關する件
一、妊産婦及び兒童保健思想啓發に關する件
一、保健衞生調査に關する件

會報

大日本婦人衞生會

收支決算報告（自大正十一年三月　至同　十二年二月）

收入

一金五千五百九拾壹圓參拾四錢五厘

内譯

金四千六拾參圓六拾六錢五厘　前年度繰越
金壹千貳百拾壹圓貳拾八錢　會費
金壹百參拾九圓六拾四錢　寄附及廣告料
金壹百七拾六圓七拾七錢　預金利子

支出

一金貳千五拾七圓六拾六錢五厘

内譯

金四百八拾五圓參拾錢　報酬
金壹千貳拾九圓拾錢　圖書及印刷費
金拾貳圓七錢　筆墨費
金壹百參拾參圓四拾錢五厘　通信運搬費
金六拾貳圓四錢　集會費
金七拾壹圓七拾五錢　雜費
金貳百六拾四圓　借家料

收支差引

一金參千五百參拾參圓六拾八錢

内譯

金參千圓　川崎銀行預金
金四百拾貳圓八拾貳錢　東京貯蓄銀行京橋支店當座
金貳拾八圓參拾貳錢　振替貯金
金五拾圓　借家敷金
金四拾貳圓五拾四錢　手元有高

○五月例會

五月二十六日午後二時より牛込區市ケ谷河田町東京女子醫學專門學校に於て例會開催左の講話ありたり。

「ヴィタミン」と疾病　醫學博士　坂口康藏君

當日出席の役員

濱尾作子　鳩山春子　長谷川仲子
岡田德子　高木鐐子　土肥多越子
吉岡彌生子　（いろは順）

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮大妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 子爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

理事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山口眞子
同 三浦政子
評議員 入澤常子
同 服部繁子
同 子爵母堂 仁禮壽賀子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 男爵夫人 南部限子
同 松平芳子
同 男爵夫人 古市幸子
同 相磯まさ子
同 岸澄子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

同 長谷川仲子
同 高木鉎子
同 天野多喜子
同 羽田三緒子
同 原光子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵母堂 加藤鈴子
同 吉岡彌生子
同 高橋孝子
同 中濱芳子
同 子爵母堂 松井正子
同 近藤憲子
同 男爵母堂 青山孝子
同 菊池峯子
同 三宅藤子
同 瀨川さわ子

大正十二年六月二十二日印刷
大正十二年六月二十五日發行

東京市本鄕區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者 莊司秋次郎

東京市本鄕區駒込林町百七十二番地
印刷者 柴山則常

東京市本鄕區駒込林町百七十二番地
印刷所 合資會社 杏林舍

東京市本鄕區駒込千駄木町五十番地
發行所 私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所

東京市本鄕區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座三丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 眞明堂
同市同區龍岡町 南江堂支店
同市芝區愛宕町 明文館
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京京橋元數寄屋町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本鄕區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

陣痛催進劑
ピツイトリン

ピツイトリンの產婦人科領域に於ける聲價は眞に隆々たり。之蓋、本品は子宮に作用して之を收縮せしめ、而も他の子宮緊縮藥に於けるが如く、其性質强直性ならず、〇・五乃至一・〇㏄の注射により、能く速に陣痛强盛を來して、產期を短縮せしむる效果、顯著確實なればなり。

ピツイトリンは又强心、止血、利尿の作用ありて種々なる內科的疾患に試みられつゝあり。

【文獻第あり御申越次第成呈す】

滅菌硝球　一㏄入
三管壹箱

妊娠惡阻特效藥
ユゴール

ユゴールはドクトル飯田左三先生の發見せられたる惡阻の治療藥にして、多數實驗家の臨牀成績は妊娠惡阻に對し、顯著確實の奏效を示したるのみならず一般諸種の嘔吐患者に對しても亦用ふるに足る藥劑なるを明にせり、而してユゴールは些の副作用なく、之れが應用は何等の不安、何等の顧慮をも要せずと稱せらる。

【文獻御申越次第進呈】

◆賣品種類◆

注射用ユゴール
一㏄硝球十管入
內用ユゴール
膠球(〇・三瓦)五十球入
同百球入

發賣元　三共株式會社

本社　東京室町

大阪出張所　北淡路町
臺北出張所　府後街

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN